



邑楽町町歌

作詞：酒井良之佑
作曲：美山幸成

1. ひらける だいち はてもなく
2. かがやく だれきし いまに なつき

ゆたかな みのりを うたいつつ
じちのこころを もとにして

あらたないぶき ゆめおおし あすへむかって けんせつの
りそうのさとに はなさかす ひとのわかたく はげみあう

つちおとり たかき わがまちよ
みど たうわし わがまちよ

おうら おうら おうら まち

邑楽町町歌を聴くことができます。

邑楽町町歌

音源は、昨年10月20日に行われた町制施行50周年記念式典で歌ってくれた「町少年少女合唱隊SING!」によるものです。



全国に視野を広げると、それまでの郷土歌を今風の曲調にアレンジして町歌のの一つとして取り組んでいるところがあります。邑楽町でも町おこし、郷土愛の醸成といった取り組みの中で、邑楽町町歌が担える何かを考えてみるのが、町制施行51年目の今、あっていいのかもしれない。

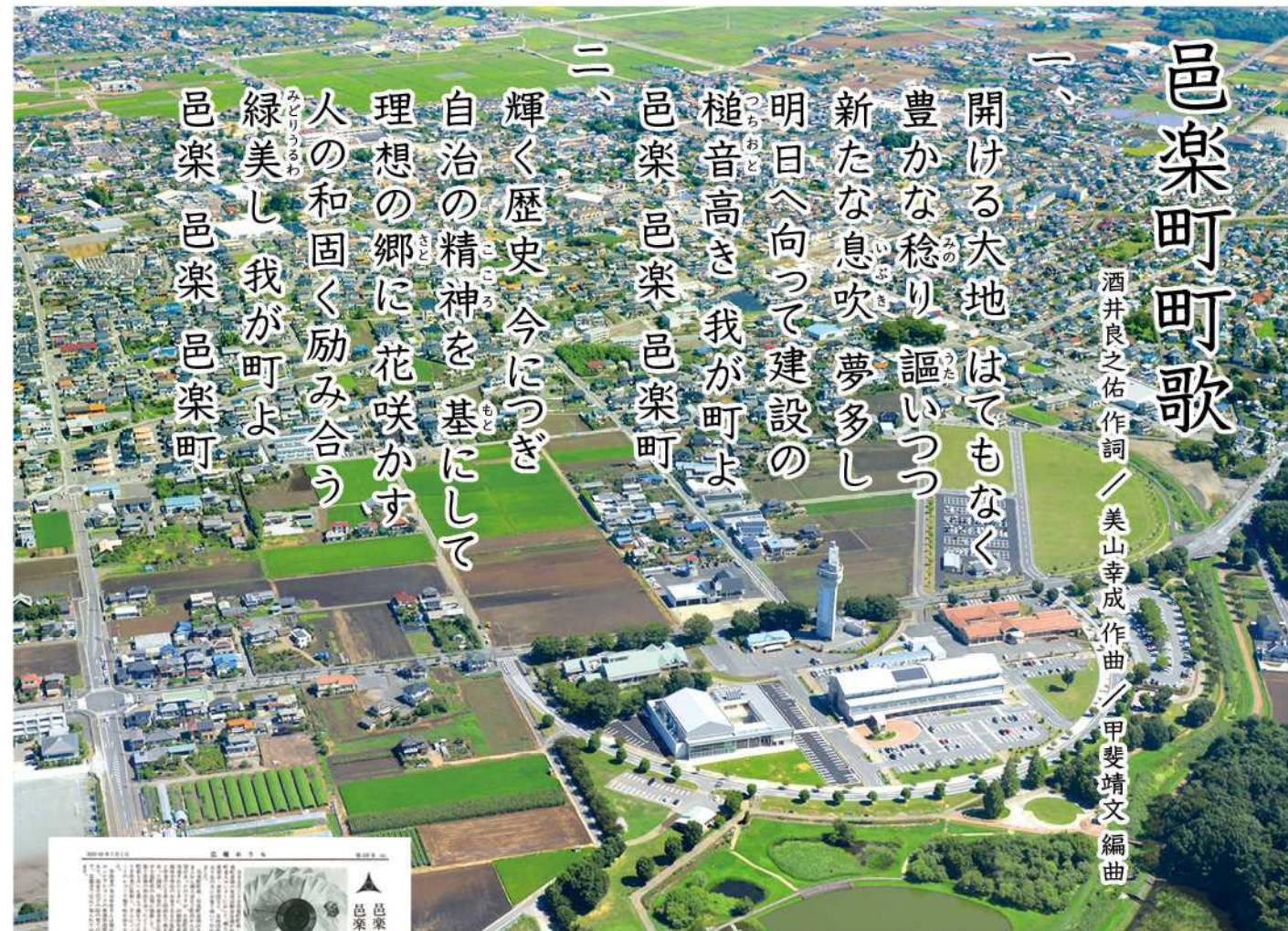
歌が持つ力と次の50年への歩み

こうした歌は、仲間意識を呼び起こし心をつなげる効力を持っているような気がします。全国に視野を広げると、それまでの郷土歌を今風の曲調にアレンジして町歌のの一つとして取り組んでいるところがあります。邑楽町でも町おこし、郷土愛の醸成といった取り組みの中で、邑楽町町歌が担える何かを考えてみるのが、町制施行51年目の今、あっていいのかもしれない。

トさせた、おうらことも園にも園歌が新しくできました。

自分たちの歌がある

幼稚園、小学校や中学校にも自分たちの歌があります。昨年度に保育をスター



邑楽町町歌

酒井良之佑 作詞 / 美山幸成 作曲 / 甲斐靖文 編曲

一、
開ける大地 はてもなく
豊かな稔り 謳いつつ
新たな息吹 夢多し
明日へ向って建設の
槌音高き 我が町よ
邑楽 邑楽 邑楽町

二、
輝く歴史 今につぎ
自治の精神を基にして
理想の郷に 花咲かす
人の和固く 励み合う
緑美し 我が町よ
邑楽 邑楽 邑楽町

↑ 上空からシンボルタワー周辺を望む (平成30年8月27日撮影)

[Close Up]

← 邑楽町町歌誕生の記録を残す広報おうら (昭和50年7月1日号)

かねてより町民からの要望があったとされる邑楽町町歌と邑楽町音頭は、昭和50年に完成しました。

きっかけは邑楽町第三代目の町長にあたる故小島常男町長 (昭和49年10月28日～昭和56年1月30日) の初当選でした。小島町長は旧制群馬県立館林中学校の出身で、作家・酒井良之佑氏の弟と同級生でした。小島町長の当選に感激した酒井良之佑氏が、邑楽町町歌と邑楽町音頭の歌詞を小島町長に贈ったそうです。これを大変喜んで小島町長は曲を付けることを依頼します。この後、邑楽町町歌は邑楽町音頭と一緒に完成した、ということです。

邑楽町町歌は今

令和元年6月1日現在で2万6,508人が暮らす邑楽町ですが、邑楽町町歌をどれだけの人が知っているでしょうか。実は、邑楽町町歌よりも知っている人が多いと思われる邑楽町音頭と時を同じくしてきた郷土歌があるんです。

毎日、役場庁舎に出

勤する職員が必ず耳にする

歌こそ「邑楽町町歌」です。午前8時20分

から流れ始めて、もちろん二番まで。

ある職員は「ここで聴くまで歌があることすら知りませんでした。ほとんどの職員がそうじゃないですかね」と話せば、またある職員は「もう一年近く聴いていますから、歌えますよ。仕事を始めるためのスイッチになっています(笑)」と話します。

役場庁舎で邑楽町町歌を流し始めたのは金子正一町長の掛け声でした。金子町長は「正直、私自身も邑楽町町歌があるという程度の認識でした。でも、せっかくあるのだから、みんなに知ってもらいたい。郷土愛を育む一つのツールとして大切にしたい。まずは職員から役場庁舎で流し始めました」と、その目的を話しました。

現在では、役場庁舎以外で邑楽町町歌が流れている場所はありません。町民の皆さんが邑楽町町歌をご存じないのは至極当然なことなのです。



現在残る邑楽町町歌のレコード盤 (昭和63年に再作成したもの) →